

血液内科

概要

部長：石川 隆之

スタッフ：8名（5名は日本血液学会指導医）

専攻医：6名

非常勤医師：先端医療振興財団の医師1名

外来：予約外来と新患外来（ともに月～金、午前・午後）の2.5診体制

2019年の診療実績

1) 年間受診新規発症患者数：

急性骨髄性白血病 34名、急性リンパ性白血病 10名、悪性リンパ腫 167名
多発性骨髄腫 24名、骨髄異形成症候群 33名
再生不良性貧血 6名、骨髄増殖性腫瘍 35名

2) 年間造血細胞移植施行数：

同種造血幹細胞移植 38件、自家造血幹細胞移植 13件

3) 入院患者数

52名

特徴

悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などの治療は初回治療を除き原則として外来化学療法部で行われるが、急性白血病の治療や、自家ならびに同種造血幹細胞移植は、本館と南館と合わせ30床の無菌病室をフル回転して行っている。自家ならびに同種造血幹細胞移植は、患者さんにとって最適な時期に行うことが肝要であるが、当科では非血縁移植を除き移植の待ち時間はない。また当院は救命救急センターであり、血栓性血小板減少性紫斑病などの希少な非腫瘍性血液疾患に接する機会も多い。

入院診療は、3-4名のスタッフ医師と、3名の専攻医よりなる診療チームを単位として行われている。現在診療チームは2つあり、それぞれおよそ30名の患者を担当している。患者さんごとに主治医を置くものの、重要な病状説明や治療手技においては、診療チーム全体で対応している。また、患者さんの病状や治療方針はチームのすべての医師が理解し、把握している。診療チームの利点は、若手医師は常に上級医師の指導を受けることができること、入院から外来診療への移行がスムーズに行われることのほか、学会出張のみならず、急な体調不良時など主治医不在の際においても、患者さんに不利益が及ばないことにある。専攻医の学会出張は大いに推奨され、夏季休暇・年休の取得に支障はない。

当科では年ごとに外来診療の比率が高まっており、最近では外来収益が入院収益と肩を並べるまで増加している。2年次以降の専攻医には外来枠を確保し、入院で導入した悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の化学療法を継続することとしている。同種造血幹細胞移植後患

者の退院後フォローも貴重な経験となる。外来は常時 2 診以上でなされており、専攻医が外来診療で迷ったときにはスタッフ医師のアドバイスを容易に受けることができる。

高度医療に関しては、2020 年 11 月にキムリア診療の施設認定を受け、CAR-T 治療を開始した。B 細胞性腫瘍に対して画期的な治療効果をもたらす治療法であるが、2021 年 4 月の段階で施設認定を受けているのは全国で 23 施設、兵庫県では当科を含めて 2 施設のみである。キムリア以外の CAR-T 治療の導入も積極的に取り組んでいく予定であるが、CAR-T 治療の経験を積むことは貴重な経験となるはずである。また、当院は CAR-T 治療や BiTE を含む新規薬剤の開発治験に深くかかわっている。国際共同第 III 相試験のみならず、第 1 相・II 相試験も行っており、従来治療法がなかった患者さんにも恩恵をもたらすことができる場合がある。多くの治験に参加することで、近い将来の医療を展望できるとともに、発売後に速やかかつ適切な臨床導入が可能であろう。

学術面では、診療成績の向上を目指した臨床研究を推奨している。今まで多くの研究が日本血液学会総会のみならず、米国血液学会（ASH）や欧州血液学会（EHA）などで報告され、論文化もされてきた。平成 23 年以降の 9 年間に当院の専攻医、若手医師を筆頭者とする演題が ASH に 29 題採択され、うち 2 題は口演に採択された。また 14 題が abstract achievement award を受賞した。

一般目標

貧血などの血球減少症、血球増加症、不明熱、リンパ節腫脹、肝脾腫、出血傾向などを呈する患者に対して、しっかりとした鑑別診断を立てたうえで正確な診断ができること。診断確定後には、適切な治療計画を立てることができ、確実に遂行できる能力を養う。治療には同種造血幹細胞移植のみならず、緩和的医療も含まれる。

行動目標

- 1 年目：** 骨髓塗抹標本スミアを読み、血液疾患の鑑別診断ができる。また治療効果の評価ができる。
造血器腫瘍それぞれに対する標準的な化学療法を理解し実践できる。
同種造血幹細胞移植の適応を理解する。
- 2 年目：** 骨髓生検やリンパ節病理標本の所見が理解できる。
入院中に受け持った患者を外来でフォローできる。
外来化学療法を安全に施行できる。
新規発症血液疾患患者における治療方針を主体的に立案し、実行できる。
再発患者、難治性患者に対して救援療法を立案し施行できる。
造血幹細胞移植の併発症を診断し適切に対応できる。
治療成績の向上を目指した後方視的検討を行い学会や研究会で報告する。
前方視的臨床研究（治験を含む）に参加する。
英文もしくは和文で症例報告を 1 編以上投稿する。
- 3 年目：** 外来を新規に受診した血液疾患患者を診療し診断することができる。

同種造血幹細胞移植のドナー選択、幹細胞源の決定、前処置やGVHD 予防法の立案でき、併発症に対して適切に対応できる。

国際学会で演題を報告する。

4年目： 臨床試験の立案ができる。

3年目以下の専攻医の指導ができる。

診療チームのなかでリーダー的役割を果たせる。

週間スケジュール

	朝	午前	夕
月			内科カンファレンス
火			血液病理カンファレンス
水	抄読会		
木			入院患者カンファレンス
金		回診	

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

石川 隆之 : ishikawa@kcho.jp